

あじさい

Vol.

6

〒650-0013 神戸市中央区花隈町33番19号 Tel. (078) 351-0657 (代表) <http://www.kobe-kango.ac.jp/>

第二学科の閉科にあたり

湯浅佳子

第二学科は平成23年3月をもって閉科いたします。第一学科に続いて第二学科が閉科することはとても寂しいことですが、思い出されることは、苦勞したことや、辛かったことよりも楽しかったことや嬉しかったことばかりです。

特に閉科までの8年間、教務主任として大過なく学科を運営できましたのも、皆様のご理解とご支援の賜物と心より感謝し、お礼を申し上げます。

随分と前のことですが、恩師から言われた言葉があります。それは、「自分も長い間教育に携わってきたけど、自分にできたことは、第2線で活躍する人を残せたということ。自分の後輩を育てるためにあなたも頑張るよ」というものでした。看護師としての基礎的な知識や技術はもちろんのこと、社会人としての職業意識や倫理観をそなえた「人を育てる」ということのむずかしさを感じながら教育活動に携わってきました。その卒業生達は706名になります。

学科を運営するにあたりマンパワー不足がありましたが、4人の卒業生が非常勤の実習指導教員として本校に勤務し、その臨床能力を遺憾なく発揮して後輩達を指導してくれました。また臨地実習の場においても、多くの

卒業生から指導を受けることができました。まさしく第2線で活躍する人の力を実感したといえます。そしてその場で先輩から後輩に看護のところが受け継がれているということに感動すら覚えました。

また昨年は1期生と11期生の同窓会に出席する機会がありました。育児のために家庭に入っている人もありましたが、多くの人が現役のナースとして活躍していました。そして自分の夢や目標を堂々と、そして活き活きと語ってくれました。学生の時には頼りなかつた人達も今やベテランナースです。自身の努力もあると思いますが、本校を卒業後、こんなに頼もしく育てていただいた事を感謝するとともに、この人達が本校の卒業生であることがとても誇らしく思えました。

「人はなりたいたいと思う人間にしかならない」といいます。言い換えれば「なる」とする意志さえあれば、望む人間に近づけることはできるのです。希望は自らがつくりだすものともいえます。

第二学科はこれで閉科になりますが、この学校で培った看護に対する熱い思いを臨床の現場で思う存分に発揮し、なりたい自分を目指して頑張ってください。願ひのちがひ。

第二学科閉科にあたり～卒業生の言葉～

1期生の思い出として、阪神大震災は大きいです。実習目前に発生し、日常生活もままならない状況の中、幸いにも大怪我をした仲間もなく、学校の再開時は心から喜び合いました。今まで当然であった通学は勿論、生きていることがありがたくみんなの笑顔が励みとなり卒業まで乗り越えられました。今も思い出話に笑いあい、時には苦言を言ってくれる友は私の支えです。これからも看護師として多くの方たちに関われることに感謝し、頑張っていきたいと思えます。最後になりましたが、これまでご指導下さった先生方から心からお礼を申し上げます。

医療法人 昭生病院 1期生 材津佳代

滋賀の衛生看護科を卒業し、神戸で始めた学生生活は、すべてがキラキラしてみえました。全国から集まった仲間とは年齢も近くすぐに打ち解けよくしゃべり、よく遊びました。しかし、2年という短い期間での詰め込み学習はかなりハードで、実習レポートやテスト勉強ではくじけそうになることも多々ありました。

そんな時はいつも仲間と共感し合い、励まし合い、先生方に助けて頂きながら、なんとか無事に2年間を終えることができました。

辛いと楽しいが混ざった濃厚な学校生活では、人間としていろんなことを学んだと思えます。卒業後12年が経ち、第二学科が閉科すると聞いて、さみしい気持ちになりましたが、これから学ぶ姿勢を忘れず成長していきたいと思えます。

医療法人 栄昌会 吉田病院 4期生 村上紘子(塚本)

私が卒業して、早いものでもう6年という年月が経ちました。私にとって学生生活の2年間は自分を変えることのできたスタートの2年間でした。あの時必死に頑張っていたら、今でも看護師に憧れたまま、看護の本当の辛さや楽しさを知らないまま働いたのだと思います。

学生生活の2年間は、正直とてもハードでした。辛い事もたくさんありましたが、同じ目標に向かってる仲間や私たちの事を考えてくれている先生方、そして家族に支えられて乗り越えることができました。私にとっても大切な忘れられないことではない時間です。

第二学科が閉科してしまうのはとても残念ですが、私たち卒業生の心の中にずっと残り続けると思います。

医療法人社団 神鋼会 神鋼病院 10期生 河原美香



第二学科 2年生の声



◆実習や課題、試験など大変な二年間でしたが、二つ乗り越えることで、自信にもなりました。ここの学びを大切にしていきたいです。(池本智子)

◆今までの人生で一番勉強した二年間でした。これから出会う患者様に良い看護が提供できるように頑張ります。(伊藤 恵)

◆地方からこの学校に入学し、最初は戸惑うことが多かったけれど、同じクラスの仲間や先生方に支えられ、いろいろなことを学び、成長できた二年間でした。(猪山裕美)

◆看護や疾患の勉強、実習や記録、大変なこともありましたが、クラスメイトと支え合い多くの方からの指導により、学びは深く大きなものとなりました。(大西久美)

◆授業や実習を通して、看護の奥深さを感じさせられ、多くの学びを得ることが出来ました。支えてくださった先生方や仲間への感謝の気持ちを忘れず、頑張りたいと思います。(大橋幸子)

◆たくさんの方の支え、たくさんの仲間に出会うことが出来た二年間でした。(古西祐美)

◆今までの一番辛く、一番努力した二年間でした。看護以外にもたくさんさんの事を学ぶことができて、充実した学生生活でした。(小脇賢大)

◆初めは学校生活に馴染めるのが不安でした。しかし、振り返るとあつという間に二年が過ぎていきました。支えてくれた周りの人に感謝し、これからも頑張ろうと思います。(四宮良子)

◆実習は大変でしたが、諦めずに最後まで頑張ることができました。(高橋智子)

◆私にとっては久しぶりの学生生活で、最初は不安もありましたが、みんなのおかげで楽しく充実した二年間が送れました。(高橋真由美)

◆実習は大変で苦しかったけど、メンバーや仲間を支えられ乗り越えることが出来、充実した二年間でした。ありがとうございました。(高橋利枝)

◆大変な二年間でしたが、たくさん学ぶことができました。又皆と出会うことが出来て良かったです。ありがとうございました。(浦下友紀子)

◆早く早い二年間でした。友達や先生と一緒に勉強できて良かったし、実習も大変だったけど楽しかったし、色々な楽しい企画もあって、この学校でよかったです。ありがとうございました。(立花友里)

◆勉強や実習は大変だったけど、学びの多い二年間でした。(田中紗代)

◆楽しいことも辛いこともたくさんあったけど、多くのことを学ぶことができた二年間でした。(谷崎志保)

◆たくさんの実習や課題は辛くて大変だったけれど、二つの目標に向かって継続してやり遂げていくことの大切さを学んだ二年間だったと思います。(中田成美)

◆この二年間実習や勉強に追われる日々であつた



◆学校生活・実習を通して辛いこともたくさんあったけど、クラスのみんなに助けられながら、自分自身が成長できた二年間でした。(藤田佳美)

◆実習を通して、准看では学び得なかった看護の奥深さを学ぶ事が出来ました。あつという間の二年間でしたが、楽しいことや辛いことなど様々な事があり、充実した日々を送ることが出来ました。(前田雅子)

◆特に実習は大変でした。しかし学校生活が楽しかったので短く感じた二年間でした。ここの学びを忘れずに頑張っていきたいです。(増田賢詞)

◆実習に勉強に大変な二年間でした。学校での学びを大切に、これからも頑張ります。(松浦伸枝)

◆二年間長いと思っていたけど、あつという間でした。辛いこともたくさんあったけど、クラスのみんながいてくれたので、楽しく過ごすことができました。(三木 恵)

◆長いようで短い二年間。辛いことが多かったけれど、良き仲間にお恵まれ、楽しい二年間となり自分も成長できたと思います。支えてくれた先生や仲間への感謝、感謝。(三原功嗣)

◆長くて短かった二年間でした。いっぱい学んで、少し成長することが出来ました。(三村 彩)

◆この二年間辛いこともたくさんあったけど、それ以上の学びもありました。そして、大切な友達にも出会えて充実した二年間でした。(森岡佳苗)

◆この学校に入学して看護の学習を深めただけでなく、精神的にも大きく成長することができました。(守口シヨナ)

◆はじめは勉強などついていけない心配でしたが、周りの方々に支えられ二年間成長することが出来ました。ここの学びを現場でも活かせるよう頑張ります。(山崎尚美)

◆実習や課題で大変な毎日だったけど、仲間を支えられて二年間楽しく過ごすことができました。学生生活で学んだことを今後も活かしていきたいと思えます。(山里公利)

◆勉強・実習にとても大変な二年間でした。看護師になるのは本当に難しい事なんだと改めて考えることができた学校生活でした。(湯本彩香)

◆学内学習、臨地実習と大変でしたが、どちらからも多くを学ぶことができました。そして、楽しい仲間と出会うことができました。(吉田直美)

◆人生で一番勉強した学生生活で、色々あったけど人として少し成長できた気がしました。(入江也)

◆辛いこと楽しいこと、多くのことを経験し、いろいろな意味で二回り成長することができた学校生活でした。(笑)。支えてくれた友達、家族、すべての周りの人に感謝！(森崎綾乃)

◆学校生活は大変な事ばかりでしたが、それ以上にたくさんさんの事を学ぶことが出来ました。この学びを現場でも活かせるように頑張りたいと思います。(甲斐唯)



第二学科 野外活動

私たち第二学科2年生は、9月22日にしあわせの村でバーベキューをしました。大自然の中でクラスメイトと食べる食事は美味しく、実習中の良い気分転換となりリフレッシュすることができました。また、実習グループに分かれて、買い出しから片付けまでを協力して行ったことで、団結力を高める機会にもなりました。実習期間中の楽しい行事だったので学生生活の良い思い出を作ることができました。

第二学科 2年 森崎綾乃



臨地実習を通して

2学年の5月から約6カ月間、領域別の臨地実習へ行きました。実習は授業とは違い、教科書では学べない多くのことを学ぶことができました。

実際に患者様を受け持ったことで、看護師としての役割はもちろん、命に関わる責任や患者様との信頼関係の大切さなど、身をもって実感することができました。同時に患者様からの言葉や変化から看護の楽しさや喜びも知ることができました。また、実習で出会ったすべての患者様は、私にとっても意味のある出会いであり忘れることができません。悩み、涙することもありますが、実習での学びや患者様との出会いはかけがえのない宝物となりました。

第二学科 2年 三木 恵



臨地実習指導者会議及び臨地実習指導者研修会を終えて

平成22年度臨地実習指導者会議及び臨地実習指導者研修会を、11月18日に開催しました。



今回は、ポートフォリオを活用したプロジェクト学習と臨地実習について、第一部

は林小学校長の講演、第二部は2年生による臨地実習のプレゼンテーションが行われました。学生たちは、自分達の意志で実習をどのように進めて学んできたかを伝えました。実習施設からは51名の参加者があり、学生の成長を大切にツールも頂きました。学生の学習状況を実際に聞いたりすることで、ポートフォリオを活用する臨地実習についての理解が深まったと考えます。

実習調整者

阿見 馨



実習施設交流会

平成23年2月4日(金)18時半から神戸メリケンパークオリエンタルホテルで実習施設との交流会を開催いたしました。交流会には21施設35名の方々ご参加下さいました。

本年度をもちまして第二学科が閉科します。多くの実習施設が第二学科開設当初から学生指導に関わってくださいました。どうも有難うございました。

また、交流会では、実習施設の皆さまから学校への要望や学生への思いを伺うことができました。忌憚のないご意見をいただきよりよい教育の実施を目指します。今後も学校運営にご協力の程よろしくお願ひします。

副学校長 鵜飼知鶴



第二学科の閉科と今後について

昨年3月2年課程定時制(第一学科)の閉科に引き続き、平成6年4月に開設された2年課程全日制(第二学科)もこの3月に閉科することになりました。今年の卒業予定者を含め卒業生の総数は17年間で706名にのぼり、それぞれ兵庫県民間病院協会の会員病院を始め各医療分野で活躍されています。

准看護師資格を持って入学される方々が全国的に減少してきたことによる大幅な定員割れが閉科の原因であり、今後本校では看護経験のない高等学校卒業資格者が受験できる3年課程の学科だけとなります。

このような定員減少に対処するため1昨年以來3年課程の定員増に向けて準備作業を進めた結果、この程定員増が正式に認められましたので本年4月入学生から定



(校舎)

員60名で運営することになります。少人数で効果的な授業を目指し1学年はそれぞれ30名のクラス制となります。1教室を増備して6教室にするとともに、学習に専念できるよう読書ルームを増設し、あわせて演習室も4室設置するなど新入生受入れ体制を完了しました。なお将来的には定員70名を目指してまいりますので今後本校へのご支援を宜しくお願いいたします。

教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

本校は兵庫県下の民間病院の医療を担う看護者の育成を目的とし、医療安全に対する意識を高く持ち、自ら感じ考え行動できる専門職業人の育成を目指す。

看護はあらゆる健康状態の人々を対象とし、生涯を通してその最期までその人らしい生活を送れるように支援することである。

また、学生一人ひとりをかけがいのない存在としてとらえ、可能性を引き出し、その能力を最大限に発揮できるように支援する。

教育目的

本校は看護師に必要な基礎的知識・技術・態度を修得し、豊かな人間性を育み、倫理的価値観を形成し、兵庫県下の民間医療に貢献できる看護の実践者を育成することを目的とする。

教育目標

1. 生命の尊重と人間愛を基礎とし、相手を思いやる豊かな人間性を養う。
2. 人間を統合的に理解し、看護を必要とする対象に対して、根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
3. 看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームの一員として社会に貢献できる基礎的能力を養う。
4. 自らの意志で学び、よりよい看護を探究する基礎的能力を養う。



平成23年度入学試験応募状況

昨年11月に高等学校新卒の推薦入学試験と社会人入学試験を行いました。また本年1月に一般入学試験(1次)と2月に一般入学試験(2次)をそれぞれ実施しました。本年より60名定員でご案内をしましたが次の通り昨年以上の応募者がありました。

・推薦入学試験応募者	22名
・社会人入学試験応募者	108名
・一般入学試験(1次)応募者	160名
・一般入学試験(2次)応募者	105名
総合計	395名

編集後記

最後の卒業生として巣立っていく第二学科36名の「声」をどのように感じられたでしょうか。

時代の変遷とは言え寂しい限りです。第二学科は遠方からの進学者も多く、時には様々なお国訛りが飛び交うこともあり、そんな初々しさを微笑ましく思ったものです。

また、すでに准看護師として病院での勤務経験があったり、他の職業からこの道を志した人も多く、学生さんこちらが励まされたり元気を貰った事もありました。

いろいろな思い出は尽きませんが、今後は本校で培った知識と感性を大事に育てていって欲しいと強く願っています。

広報委員 事務部 一ノ瀬加代子



あじさい 第6号

発行日 平成23年2月18日

発行所 社団法人兵庫県民間病院協会

神戸看護専門学校

発行責任者 林 美 栄 子

印刷所 有限会社 河里盛広館